

第Ⅰ回地域連携推進会議

日時：2025年9月1日月曜日 13:30～15:30

場所：PalmTerrace（パームテラス）鹿児島市草牟田町10-31

出席者：入居者代表、入居者の家族、鹿児島聾学校教諭（2名）、理事長、管理者、サービス管理責任者、世話人（2名）

会議の目的

- ・グループホーム及び入居者と地域との関係づくり
 - ・地域住民の理解促進
 - ・サービスの透明性・質の確保
 - ・利用者の権利擁護
-

議題・内容

1. 開会挨拶 理事長より挨拶
2. 出席者自己紹介
3. 施設説明（管理者）
設立経緯、定員数、スタッフ体制、入居者の1日の流れ、入居費用を説明
4. 行事説明
同法人の就労継続支援B型事業所（ぶどうの木）との連携やみたま祭り、誕生会、クリスマス会、避難訓練などの取り組みを説明
5. 質疑・意見交換

・生活の変化

ご家族より入所直後はホームで覚えた料理を家庭で作ったりしていたが、最近は家庭ではゆったり過ごすようになったとのこと。

・自立支援

管理者から、病院受診や通訳依頼を段階的にではあるが入居者自身で行えるようになった旨を説明。

世話人からは、買い物の自立過程を説明。入所当初はスタッフのサポートを受けながらの買い物だったが、今では1人で買い物できるまで成長しており、紙幣・小銭の扱いも練習中との説明があった。

サービス管理責任者からは、ホームでの生活習慣が作業所での自立にもつながっていることを説明。

・生活環境の工夫

教諭からは、学校教育では五教科の学習が基本でありながらも、生活自立に向けた実践的な指導の重要性も感じており、ホーム内の目で見てわかる掲示や調理支援を通して、改めてその重要性を痛感した、との発言があった。

世話人からは、材料の写真や名称、部位名を掲示することで、料理の幅や自分で情報検索する力が格段に上がったとのこと。

・スマホ・ネット・防犯

教諭より、スマホや情報の偏りへの対応の質問があった。

管理者より、フィルターバブルの影響や防犯ブザー利用について説明。

教諭より、防犯ブザーは使用している生徒もいるが、ろう者向けではないと補足説明がある。

・余暇・課金管理

入居者は、ゲームを通じて国内外に友達がいることを説明。

教諭より課金管理について質問し、入居者は「1か月にいくらまで」と自己管理していることを回答。

・利用日数

教諭より 365 日利用できるか質問。

理事長より、家庭との時間を大切にしているため、週末は帰宅する入居者が多いが、希望に応じて年間通して利用も可能であると回答。

6. 施設見学

・パームテラス、サインテラスを見学し、生活環境や掲示物の工夫を見学

7. 閉会

【今回確認された課題】

- ・ 金銭管理（小銭を使った支払い習慣の定着など）
- ・ スマホやインターネットの情報の偏り、防犯面での安心確保
- ・ 学校教育と卒業後生活をつなぐ支援体制の強化
- ・ 家庭とホームの生活リズムや支援内容の相互理解

【今後の取組み】

- ・ **金銭管理**：日常的に小銭を使う練習を継続し、実生活に即した金銭感覚を育成する。
- ・ **スマホ・ネット・防犯**：スマホやインターネットの正しい使い方や、防犯に関する取り組みを検討する。
- ・ **教育機関との連携**：鹿児島聾学校との連携を深め、卒業後の生活を念頭においた情報交換につなげる
- ・ **家庭との連携**：ホームと家庭の双方において利用者に関する共通認識・理解を持ち、一貫した生

活支援を行えるよう情報を共有する。

【感想】

家族：これまでグループホームでの生活リズムばかり気にしていたが、今回、スマホとの向き合い方や金銭感覚など、ホームと家庭の連携の大切さを知った。今後も、地域の方々にも理解、応援してもらえよう私たちも協力していきたい。

教諭 A：卒業後の生活支援に関して、特に近隣での買い物や病院訪問に同行してもらえること。将来的に独立できるように見守ってもらえる。また、環境については、洗面所や洗濯機の使用 방법이文字やイラストで分かりやすく表示されている。高等部卒業後に不安を抱える保護者に、今回得た情報の交換や施設見学の内容を共有し、進路指導に役立てたい。

教諭 B：保護者が高等部卒業後の子どもの生活に対して不安を抱いている。丁寧な生活支援から得た気づきやエピソードは非常に参考になる。また、子どもたちが習得した内容を定着させるにはかなりの時間がかかるため、小学部の段階からその取り組みを持続的に行うことが必要であると痛感した。